

科目名	吃音			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 吃音の発生メカニズムや吃音症状の特徴と経過、またその検査や評価方法についての知識を学び、訓練・指導の技術を修得する。								
【実務者経験】 高砂西部病院・大西脳神経外科病院にて、言語聴覚士として小児・成人の吃音症の治療・訓練に従事する。								
【授業全体の内容の概要】 吃音の発生メカニズムや吃音症状の特徴と経過、またその検査や評価方法についての知識を学び、訓練・指導の技術を修得する。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 吃音についての特性を説明できる。また、言語聴覚士として症状に適した対応を説明できる。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	吃音・流暢性障害の定義を理解できる。							
2	疫学的データを説明できる。							
3	吃音の発症メカニズムを理解できる。							
4	聴覚フィードバックについて理解できる。							
5	セルフヘルプ・グループについて理解できる。							
6	吃音症状の特徴と進展について説明できる。							
7	吃音の情報収集について理解できる。							
8	発話サンプルからの評価について説明できる。							
9	情緒的反応・心理面の評価について理解できる。							
10	幼児期・学齢期の指導・訓練について理解できる。							
11	小児の吃音療法（幼児期の指導・訓練）について理解できる。							
12	小児の吃音療法（学童期の指導・訓練）について理解できる。							
13	中高生～成人の指導・訓練について理解できる。							
14	中高生～成人の吃音療法（指導・訓練）について理解できる。							
15	吃音のまとめができる							
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 第3版								
【準備学習・時間外学習】 授業の予習復習を行ってください。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。								